令和２年度　伊那北高等学校　評価表

教育目標	中・長期的目標
1 平和を希求し、真理と正義を探求する資質を養う。 2 躍如として学業にいそしむ。 3 自主・自立の精神を養い、個性の伸長をはかる。 4 自由と責任を重んじ、努力を惜しまない態度を養う。	1 学習・部活動などに主体的に取り組み、将来を自ら切り拓く力をもった生徒の育成をめざす。 2 地域の実情、要望を正しく理解し、伊那北高校の将来を見据えて施設・設備を含めたビジョンを明らかにする。
	重点目標
	1　生徒・保護者・教職員が安心安全な教育環境を整え、一人一人が輝く学校にする。 2　チームとして「3つの方針」に沿った授業実践と教育課程の改善を進める。 3　100年の歴史を礎に、地域社会と協働する学校づくりを目指す。

領域	対象	重点目標	評価項目	評価の観点	具体的方法	評価の主な材料	成果と課題	改善策・向上策	関係校務分掌
教育活動	進路・学習に関わる指導	2 3	進路意識の醸成	生徒自ら課題を見つけ積極的に取り組み、進路に対する意識を高めることができるような機会の設定、情報発信等をすることができたか。	・総合的な探究の時間、生徒会活動、部活動等において、生徒が自ら課題を見つけ活動し、発信する取組みが行えるようにする。 ・外部と連携しながら、体験活動、講演会等の機会を設定し、積極的取組みを促す。 ・進路に関わる資料や冊子等を、精選した上で配布し、進路意識の醸成を図れるよう活用する。	生徒アンケート	・総合的な探究の時間、課題研究の時間を通常の時間割の中に入れたことで、コンスタントに探究活動の指導を行うことができた。生徒アンケートの結果では9割を超える生徒がこれらの活動を好意的に受け止めていることが分かった。また、外部からの評価も昨年度と比して高かった。 ・生徒会活動については、感染症対策の面で中止となった行事も多かったが、厳しい状況の中でできうる限りの活動、前例にとらわれない新しい活動を行うことができた。 ・コロナ禍において、体験活動の実施が困難だった。講演会は、オンラインで代替可能なものは実施したが、今後も対面での実施が困難なものについては、実施方法を検討する必要がある。	・学外における生徒による発信の機会を増やすために、地域や他校との連携を深めていきたい。 ・今年度オンラインで代替してきた講演会や研修会の成果を検証し、次年度の実施方法を検討する。 ・進路に関わる冊子や資料だけでなく、オンラインでのオープンキャンパスや大学説明会等の情報についても積極的に発信する。	学習指導 進路指導 生徒会
		2	進路実現	進路指導計画を作成し、生徒・保護者の納得できる進路指導ができたか。	・生徒・保護者との連携を深め、生徒が自己の進路志望を明確にできるようにする。 ・第一志望の進路実現に向けての計画を作り実現できるようにする。 ・定期考査や外部模試等の結果を分析し、課題を共有し、授業や補習の機会を通じて生徒に還元する。	生徒アンケート 保護者アンケート 成就率（満足度）	・通信やオンラインでの講話等を通じて、情報発信に努めることで保護者との連携を図った。 ・第1志望の進路実現に向けて、教員間で連携して計画を作り、指導に当たり、成果を上げることができた。 ・定期考査や外部模試の結果は、授業や補習を通じて積極的に生徒に還元することができた。	・伊那北高等学校としての進路指導方針について、教員間での意識共有、生徒・保護者への丁寧な説明を今後も行っていく。 ・第1志望の進路実現に向けて、個々の生徒に対し職員全体で指導に当たる体制を維持していく。 ・模試の意義について積極的に生徒へ周知を図るとともに、事後指導を継続していく。 ・共通テストに関する分析を教員間で共有し、次年度の授業や定期考査の改善を図る。また、新入試に対して継続的に情報収集を行い、対応できるようにしていく。	進路指導
		2	授業改善	・授業評価や学力分析を通して授業改善を行うことができたか。 ・解りやすく学習意欲を高める授業の工夫ができたか。 ・教科内連携、教科間連携による授業の効率化が図れたか。	・校内外に向けて授業を公開するなどして研修を行う。 ・授業評価の結果得られた課題を明らかにして、改善に活かす。 ・ICTを活用して、①授業内容の改善を図る、②授業の効率化を目指す、③生徒による自学自習の便宜を図れるよう工夫をする。 ・総合的な探究の時間や課題研究の時間を教科間連携の強化の場として活かす。	授業評価	・授業評価アンケートの方法を紙媒体から電子媒体にしたことで、生徒からの自由記述の量が昨年度比で5倍以上になった。これらの意見を教科内、教科間で共有したことで、より良い授業を設計することが可能になった。さらに、そのより良い授業方法を教員間や生徒にICTで共有することによって、学習効率が向上した。	・より良い授業の共有をさらに推し進める必要がある。ICTを活用して教員間でのプリントやスライドの共有や教員と生徒間での情報の共有を進めたい。総探と各教科の学習が結びつくように努力したい。	学習指導 情報
		2	家庭学習指導	授業を中心にすえた家庭学習が行える生活習慣を定着させることができたか。	・適切な課題量、適切な課題内容を全体で検討し、3年間を見据えた体系的な家庭学習を検討する。 ・予習復習や課題への取組みについて点検し、個人面談などをとおして適切な指導を行う。 ・「学習時間調査」を実施し、生徒の生活実態を把握し、家庭学習の充実を図る。	学習時間調査	・考査期間前後3週間の長期にわたって学習時間を生徒に記録させることによって、学習への意識付けができた。また調査の結果、考査後にも一定の学習時間が確保されていることが分かったが、これは、各教科における考査後指導が効力を持っていることの裏付けと言えるだろう。休校期間中には動画配信やプリントの共有などの取り組みを行った。	・3年間を見据えた体系的な家庭学習、適切な課題量に関しては、本年度得られたデータを分析して、新たに提唱していきたい。	学習指導
		2	読書指導	・読書活動を活発にすることができたか。 ・主体的・自発的な学習を支えることができたか。	・LHRを利用した「読書の時間」を実施する。 ・読書の楽しさや意義を共有するため、本と情報を提供する。 ・授業・探究学習・課題研究・クラブ活動等との連携を深める。	図書館利用者数・貸出数	・探究学習と図書館の連携を深く持つことができた。探究の時間中に図書館を訪れる生徒も数多くいた。	・探究活動における図書館利用の方法を確立させていきたい。	図書館 学習指導
	学校生活に関わる指導	1	生徒相談・特別教育支援体制の充実	関係職員・スクールカウンセラー・家庭が連絡を密にとり、生徒それぞれの状況に応じた、適切な指導を行うことができたか。	・小規模の会議から職員会まで、臨機応変に情報交換会を設定し、生徒の状況を共有する。 ・スクールカウンセラーや外部機関との連携を図る。 ・職員研修会を通じて、職員の知識・理解を深める。		・支援の必要な生徒の情報交換を密に行い、適切な支援に結びつけることができた。 ・学年や担任、養護教諭などからの要請により、適切に情報交換会、ケース会議等を開催することができた。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、外部機関との連携を図ることができた。 ・職員研修会をその後の教育活動にどう生かしていくのかが課題である。	・本校でも、充実した特別支援教育を行う必要があると、全職員がより自覚を高める必要がある。 ・必要とする生徒に適切な支援を行うために、職員間の連携を更に工夫したい。	生徒相談 特別支援教育 推進委員会
		1	生徒の健康・安全管理	学校生活における生徒の安全管理について徹底ができたか。	・学校行事や生徒会行事を運営する際、安全面でのアセスメントを徹底し、事前チェックと生徒の指導及び当日の危機対応を行う。 ・交通安全および盗難予防指導の実施と充実を図る。 ・年3回のアンケートと面接週間にて実態の把握に努める。		・中止となった行事が多いが、実施した行事では、感染症対策も含めて、安全面からも健康面からも対応を徹底できた。全員が感染症対策に関する正しい行動選択ができるよう引き続き呼びかけたい。 ・部室棟の盗難防止について、各部室の鍵を一新するとともに、各自の意識を高めるよう指導できた。 ・アンケートをClassiで実施することにより、状況の把握がしやすくなり、教員間で共有することが可能となった。 ・交通事故および盗難については、今後も継続して注意喚起が必要であ	・感染症予防に対する共通の認識と行動を呼びかけていきたい。 ・安全面での環境整備を徹底したい。	学校保健 生徒会 生徒指導
		1	環境への配慮と校舎内外の美化	「エコマネジメント長野」に基づき、ごみの減量と校舎内外の美化などを推進することができたか。	・ごみの分別、減量に努める。 ・日常の清掃の徹底と点検を行う。 ・部室周辺及びトイレ清掃を徹底する。 ・教科ごとに実施している環境教育の体系化を努める。 ・電気・水道使用量の節減に努める。	エコマネジメント長野の評価・清掃状況の把握	・日常の清掃活動状況は概ね良好である。生徒会と協力して、感染症対策を行いつつ部室清掃を11月より再開し、部室の清掃美化に努めた。 ・ゴミを扱う作業は感染リスクが高いため例年のような美化活動は行えなかったが、環境整備活動を行い美化への意識向上に努めた。 ・電気使用量は、エアコンの稼働に伴い、対前年比が123％となった。	・感染症予防に配慮しつつ、校内美化活動（ワックス掛け等）の再開を検討する。また、校外美化については、普段の登下校時などの日常的な美化意識と地域共生意識の向上につなげていきたい。	清掃 学校衛生 エコ推進委員会 エコマネジメント長野担当
学校運営	地域との連携	3	中学校、地域への情報提供	中学生及び保護者、地域の方々に本校の教育活動について理解を深めてもらうことができたか。	・土曜授業公開、入学者選抜説明会（保護者向け）、中学生体験入学を実施する。 ・中学校訪問の実施、視察の受け入れ、中学生向け進路講話への対応を積極的に行う。 ・教育内容が深く伝わるよう、学校案内をより充実させる。 ・HPに学校のさまざまな情報が掲載されていることを周知するとともに、HPや一斉メール配信等により随時情報を発信する。	来校者へのアンケート 来校者数	・土曜授業公開は申込み制で、廊下からの参観にしたためか参加者は少なかったが、今年度は保護者等の来校する機会が他にほとんど無かったため、貴重な機会となった。 ・入学者選抜説明会は計画通りにスムーズに実施できた。 ・体験入学は、例年行っている授業見学ではなく授業紹介とした。部活動見学等は実施しなかった。在校生の授業と平行しての実施は、会場や教員の余裕がなく負担が大きかった。 ・中学校訪問、中学校の保護者の学校視察受け入れ、中学生向けの進路講話については、中学校の要望などを伺いながら予定通り実施する事ができた。 ・学校案内は、昨年度までのものより2ページ増やし、教育課程や卒業生からの紹介文などを載せて内容を充実させた。 ・HP上や一斉メール配信により情報を随時発新する事ができた。	・土曜授業公開は来年度も滞りなく実施できるように準備を進める。 ・入学者選抜説明会については、中学生保護者の方の都合がつきやすいよう、来年度は2回開催する。 体験入学については、在校生の授業のない下記休業中の平日に実施し、体験授業を取り入れる。また、短時間でも部活動見学ができるよう計画したい。 ・HPをリニューアルする。有効活用を更に進め、内容の随時更新に心がけ、多くの情報発信に努めていきたい。	教務
	学校ビジョン	2 3	学校ビジョンの検討	・高校再編等も踏まえ、これからの地域の実情に基づいた、学校ビジョン、教育課程について検討することができたか。 ・大学入学共通テストや学びの基礎診断の実施に向けて、対応できる教育課程の検討がなされたか。	・今後の少子化の動向や高校再編のスケジュール等を踏まえ、アンケートやビジョン検討委員会や将来構想検討研修会を開き、多くの職員からの意見を聞き、合意形成に向け議論を行う。 ・大学入学共通テストの実施に向けて、情報収集や研究を進める。 ・あらゆる進路に対応した新しい教育課程の検討を行う。	将来像検討研修会での意見集約	・本校の現状を踏まえたカリキュラムの検討を行い、新学習指導量要領に基づく新教育課程の編成を行った。この結果、少人数講座の展開や共通テスト、あらゆる進路に対応できるカリキュラムを組める下地が作られた（ただし、大学入試の科目・内容の詳細が不明な科目があるため、情勢によっては変更もありうる）。	・新たな教育課程に向けて、さらなる情報の収集、分析が必要である。それに伴い、カリキュラムの詳細な検討を進めていきたい。 ・地域の要請や高校再編等の諸問題も考慮しながら新たな時代の学びに対応した学校づくりを研究してゆきたい。	ビジョン委員会 教育課程委員会
	組織運営	1 2 3	学校評価	・学校評価システムが機能し、課題が克服されたか。	・PTA、HP等を通じて学校の重点目標や評価項目について説明を行う。 ・学校評議委員会、学校関係者評価などを通じて評価システムの改善を図る。	保護者へのアンケート・学校関係者評価	・引き続き、生徒、保護者、学校評議員対象の「匿名性を担保した学校評価」を実施することができた。 ・学校評議員の方々から、様々なご意見、提言をお聞きすることができた。	・保護者や学校評議員の方々からいただいた評価について、改善すべき点等検討を加えフィードバックしていくことにより、本校の教育活動の向上へと繋げていきたい。また評価内容及び項目については、その改善・実現に向け全職員で検討していく。	学校評価委員会